

2022「若草プロジェクト」シンポジウム 国際ガールズデーに寄せて

18歳成人で 何が変わるか?

今年度は、成人年齢が引き下げられ、
女性支援新法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)と、
AV新法(AV出演被害防止・救済法)の二つの法律が成立し、
少女たち、若い女性たちの環境が大きく変わっていく年となります。
わたしたちにできることは何か。
一緒に考え、信頼できる大人として、共に社会を変えていきましょう。

参加費
無料

2022

11/
3
thu.

((会場)) 大妻女子大学本館E棟
055教室(地下1階)
東京都千代田区三番町12番地
((時間)) 13:00~16:15



第1部

基調講演

◇
東京大学大学院情報学環教授
林 香里



第2部

新しい法律を学ぶ
「18歳成人」「AV新法」
「女性支援新法」を知る

第3部

ディスカッション
「18歳成人で何が
変わるか?」

皆様のご参加をお待ちしております。

ハイブリッド開催【リアルでも、オンラインでもご参加いただけます】

申し込み方法
について

若草プロジェクトのホームページ
wakakusa.jp.net
または
研修・イベントページから

こちらのQRコードから
応募してください。
*先着順で承ります。



*注1) 会場でご参加いただく場合、定員150名に達しましたら、
締め切りとさせていただきます。
*注2) オンラインでご参加いただく場合は、10月27日(日)まで
にお申し込み下さい。

■ 主催 / 一般社団法人 若草プロジェクト

■ 共 催 / 大妻女子大学共生社会文化研究所
■ 後 援 / 内閣府男女共同参画局、厚生労働省、法務省、千代田区
日本BBS連盟、日本更生保護女性連盟(申請中)
■ 事業連携パートナー / 株式会社 朝日エル

主催者挨拶

13:00～

- 若草プロジェクト 代表呼びかけ人 村木 厚子
- 大妻女子大学 学長 伊藤 正直

第1部

13:10～

基調講演 ●東京大学大学院情報学環教授 林 香里

名古屋市生まれ。ライター通信東京支局記者、東京大学社会情報研究所助手、ドイツ、バンベルク大学客員研究員(フンボルト財団)を経て、東京大学大学院情報学環教授。2021年4月より、東京大学理事・副学長(国際・ダイバーシティ担当)。社会情報学博士。東京大学Beyond AI研究機構「AIと社会」プロジェクト・リーダー。朝日新聞論壇時評筆者。著書『足をどかしてくませんか メディアは私たちの声を届けているか』(編著) 亜紀書房・2019年、『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書・2017年、『<オンナ・コドモ>のジャーナリズム ケアの倫理とともに』岩波書店・2011年・電子版新版2021年・(第4回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞受賞)、『テレビ報道職のワーク・ライフ・アンバランス 13局男女30人の聞き取り調査から』(谷岡理香と共編著) 大月書店・2013年ほか。専門:ジャーナリズム/マスメディア研究。

ウェブサイト <http://www.hayashik.iii.u-tokyo.ac.jp/>



第2部

14:25～

新しい法律を学ぶ ～法律の要点について解説～

- 「18歳成人 民法」 笹井 朋昭 — 法務省民事局参事官
- 「女性支援新法」 河村 のり子 — 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長
- 「A V 新法」 金尻 カズナ — NPO法人ぱっぶす理事長

第3部

14:55～

ディスカッション 「18歳成人で 何が変わるか?」

- コーディネーター 大谷 恭子 (若草プロジェクト代表理事)
- 登壇者 熊田 栄一 (婦人保護施設 施設長)
河村 のり子 / 笹井 朋昭 / 金尻 カズナ / 村木 厚子
- コメント 林 香里

閉会挨拶

瀬戸内寂聴さんの
遺志を継いで

16:00～

- 大谷 恭子

シンポジウムに関するお問い合わせ先 ✉ email : wakakusa@ellesnet.co.jp



Little Women Project
若草プロジェクト
について

Girls have the potential to change the world —これは2011年、国連が毎年10月11日を「国際Girl's Day」と決めた時のスローガンです。少女たちの教育とエンパワーメントを推進し、一人一人が自分の人生の主人公になれるよう、世界各地で少女たちが自ら声をあげ、社会がこれを応援する取り組みが始まりました。その主旨に心から賛同し、誰も取り残さず、その「一人一人に寄り添うこと」をミッションとし、困難な中にある少女や若い女性たちを支援する為に2016年4月に、このプロジェクトを立ち上げました。

「Little Women」。「若草物語」の原題から、私たちが、「若草プロジェクト」というこの名前を決めました。緑豊かな草原はもとより、どんな荒地にあっても必ずやその1本1本の若草が、それぞれの場所で根を下ろし強く生きていってくれること、どんなに小さくてもそれぞれの花をつけてくれることを心から願い、信頼される大人として熱意と誠意を持って活動しています。